

串本海中公園 マリンパビリオン

2015. 6

特別号 No. 1



コツブコモンサンゴ

Montipora tuberculosa (Lamarck, 1816)

長径 1 m ほどの被覆状もしくは準塊状の群体を形成する。個体はやや小さく莢径は 0.6 mm で、共骨中に埋没し突出しない。1 次隔壁の長さは 0.8R 以下、2 次隔壁は 0.4R 以下で、両者は明瞭に不等長である。共骨上には直径 1 mm 前後の、肌理が細かくて先が丸く、かつ腰高の円柱状突起が密生する。本突起はしばしば互いに接合して短い畝状突起を形成するが、個体の周りに集中して共骨壁を形成することはほとんどない。和名・学名は共にこの特徴的な突起を持つことに由来する。なお、本種はトゲクボミコモンサンゴ *Montipora monasteriata* と混同されることが多い。詳しくは本紙 Vol. 44, pp. 21-22 を参照されたい。写真撮影地は西表島網取湾。スケールは 1 mm。野村 恵一

コモンサンゴ類の同定の話 (25)

国内産種の紹介 13

Montipora monasteriata と *M. tuberculosa* (4)

野村 恵一・鈴木 豪 (水産総合研究センター西海区水産研究所亜熱帯研究センター)

引き続きトゲクボミコモンサンゴ種群の種を紹介する。

ムラサキコツブコモンサンゴ (仮称)

Montipora sp. MURASAKIKOTSUBU.

図 42 (A ~ D)

Montipora monasteriata-Veron, 2000: vol. 1, 88-89, fig. 6 (part).

特徴：群体は被覆状もしくは被覆板状で、群体の大きさは最大で長径 50 cm 程である。被覆板状群体では個体は板状部の上下両面に分布する。群体上面は明瞭な瘤状突起を欠くが起伏があり、隆起部では個体は不均一に分布し個体間隔は個体 3 個分以内であるが、谷部並びに平坦部では個体は密集し、個体間隔は個体 1 個分以内である。また、板状部周縁では個体はより疎らに分布する。基本的に個体は共骨中に埋没し、突出しない。莖径は 0.6 ~ 0.7 mm である。莖壁

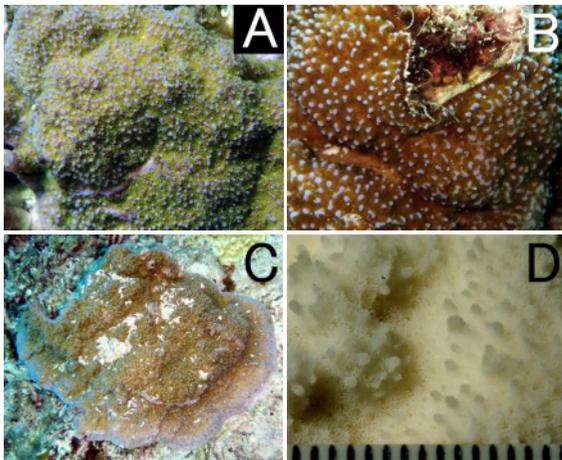


図 42. ムラサキコツブコモンサンゴ *Montipora* sp. MURASAKIKOTSUBU. A, 生時群体 (SMP2659, 西表島網取湾). B, 生時群体 (SMP2451, 阿嘉島). C, 生時群体 (SMP2617, 西表島網取湾). D, 個体とその周囲の骨格 (標本は C と同じ). スケールは 1 mm.

輪は明瞭で細いリング状をなし、基本的に突出しないが個体によってはわずかに突出する場合がある。莖壁輪の周囲には半溝状の不完全な裸地帯が認められる。方向隔壁は明瞭で、基本的に片側 1 枚が認められ、長さは 0.6 ~ 0.8R、齒状板を形成しわずかに上方に突出する。1 次・2 次隔壁は不完全・不規則で短く、両者は不等長である。1 次隔壁の長さは 0.4R 以下、2 次隔壁は 0.3R 以下で、2 次隔壁は概して未発達である。軸柱栓は欠くか発達が弱い。共骨はやや緻密か粗く、棘の先端は単純か細分される。共骨上には莖径とほぼ同じ直径の微小突起と、それが成長した直径 1.0 mm 前後の粒状突起ならびに粒状突起同士が接合した短い畝状突起がやや疎らに分布する。粒状突起は接合して畝状突起を形成する傾向があり、畝状突起の長さは最長で 5 mm 程である。なお、微小突起は丸みを帯び腰高で円柱状をなすが肌理が粗い。基本的に共骨壁を欠くが、稀に個体の周囲を小型突起が被い不完全な共骨壁を形成する場合がある。生時の色彩は共肉 (特に小型突起) は淡紫色もしくは紫色、ポリプは淡黄緑色もしくは黄色である。板状部下面は小型突起を欠き滑らかで、また、エピテカ (薄皮状の石灰質膠着構造) の発達は悪い。個体は小さく、莖径は 0.4 mm である。

産地：ケラマ群島阿嘉島並びに八重山諸島西表島網取湾。

近縁種との関係：本種は個体が基本的に共骨中に埋没すること、1 次隔壁は短く長さが 0.4R 以下であること、2 次隔壁は不完全・不規則で多くは未発達であること、微小突起は先の丸い円柱状をなすが肌理が粗く、微小突起を含む粒状突起はやや疎らに分布すること、基本的に共骨壁を欠くこと等の複数の特徴によって、他の近縁種と区別される。

仮称和名：小型突起が紫色を呈することに因む。

備考：日本初記録。

ツツコツブコモンサンゴ (仮称)

Montipora sp. TSUTSUKOTSUBU.

図 43 (A ~ D)

特徴：採集体は小型で長径は約 10 cm、薄い板状をなし厚さは基部で約 1 cm、周縁で約 0.5 cm である。個体は上下両面に分布する。群体上面は起伏があり、隆起部では個体はやや疎らに分布し個体間隔は個体 3 個以内であるが、谷部では個体はそれよりも密生する。また、隆起部では個体は共骨面より明瞭に（高いもので 1 mm ほど）突出するが、谷部では個体は埋没する傾向がある。莢径は 0.7 mm。莢壁輪は明瞭でしばしば筒状に突出し、周縁に半溝状の不完全な裸地帯を伴う。方向隔壁は不明瞭か、1 枚もしくは 1 対が認められ、長さは 0.6 ~ 0.8R で、不完全な歯状板を形成する場合があります。また、やや上方に突出する。1 次・2 次隔壁共に完全・規則的で垂等長である。1 次隔壁の長さは 0.5R 以下、2 次隔壁の長さは 0.4R 以下である。基本的に軸柱栓を欠く。共骨の肌理は群体周縁を除いてやや緻密で、棘の先端は細かく細分されない。共骨上には莢径よりも小さな微小突起とそれが成長した粒状突起が密に分布し、粒状突起は稀に接合してごく短い畝状突起を形成する。基本的に共骨壁を欠くが、1 部の個体では粒状突起に囲われて不完全な共骨壁が形成され

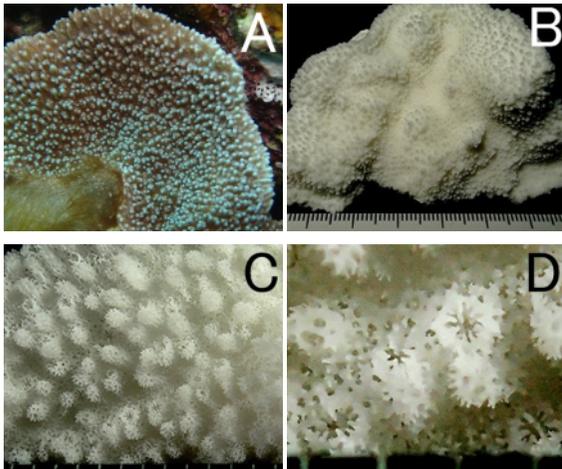


図 43. ツツコツブコモンサンゴ *Montipora* sp. TSUTSUKOTSUBU. A, 生時群体 (SMP2603, 西表島網取湾). B, 骨格標本 (標本はAと同じ). C・D, 個体とその周囲の骨格 (標本はAと同じ). スケールは 1 mm

る場合がある。生時の色彩は共肉・ポリプ共に灰褐色である。群体下面ではエピテカは末縁から 2 cm の所まで分布するが、発達は顕著ではない。表面は滑らかで微小突起や粒状突起等の小型突起を欠くが、個体の分布密度、大きさ、形状は上面と類似する。

産地：八重山諸島西表島網取湾から 1 標本のみが採集される。

近縁種との関係：本種は板状の群体を形成すること、莢壁輪の伸長に伴って個体が筒状に突出すること、棘の先端は細かく細分されないこと、小型突起が密生すること、基本的に共骨壁を欠くこと等の複数の特徴によって、他の近縁種と区別される。

仮称和名：莢壁輪が筒状に突出する特徴に因む。

備考：日本初記録。

ナンサコモンサンゴ (新称)

Montipora sinensis Bernard, 1897

図 44 (A ~ D)

Montipora sinensis Bernard, 1897: 109-110, pl. XIX fig. 3, pl. XXXIII fig. 11.

Montipora tuberculosa 内田・福田, 1989: vol. 9, 152; 西平・Veron, 1995: 49, 写真上・中.

特徴：群体は被覆状、被覆板状もしくは準塊状で、不規則で小さな瘤状突起を備える場合がある。板状部では個体は上下両面に分布する。群体上面の個体は密集もしくはやや密集し、個体間隔は個体 1 ~ 2 個分以内である。基本的に個体は埋没するが、一部の個体は周囲の共骨壁と共に共骨から突出する。個体はやや大きく、莢径は 0.8 mm である。莢壁輪は不明瞭か、細いリング状もしくは狭いテラス状で、その周囲に不完全な溝状の裸地帯が形成される場合がある。方向隔壁は 1 枚もしくは 1 対が比較的明瞭に認められ、長さは 0.8 ~ 1.0R、肥厚して歯状板を形成し、上方に突出する。1 次隔壁は完全・規則的で突出傾向があり、長さは 0.8R 以下である。2 次隔壁は完全・規則的、長さは 0.6R 以下で、1 次・2 次隔壁は基本的に不等長である。

軸柱栓は欠くか、弱く発達する。共骨の肌理は緻密で、先端が繊細な霜降り状の細分棘に被われる。群体表面には微小突起とそれが成長した粒状突起が混在して比較的密に分布する。また、粒状突起は個体の周りで接合する傾向が強く、群体全体の2～5割の個体はやや不完全な共骨壁を有する。なお、微小突起は肌理は細かく、一部は腰高で、先の丸い円柱状の形をなす。生時の色彩は共肉は淡褐色もしくは淡赤褐色でポリプは褐色か、共肉・ポリプ共に淡赤褐色である。板状部下面は周縁から0.5～1cmの所までエピテカが発達し、エピテカと周縁までのわずかな幅内に表面よりも小さな個体が共骨中に埋没して疎らに分布する。また、表面は滑らかで、小型突起や共骨壁を欠く。

産地：タイプ産地は南シナ海南沙諸島 (Tizard Bank)。国内では宮古島北沖の八重干瀬、八重山諸島石垣島ならびに西表島。

近縁種との関係：本種は個体がやや大きく莖径が0.8mmあること、2次隔壁が完全・規則的であること、共骨が緻密で先端が繊細な霜降り状の細分棘を持つこと、共骨壁は比較的良く発達すること、微小突起の一部は腰高で頭の丸い円柱状をなすこと等の複数の特徴によって他の近

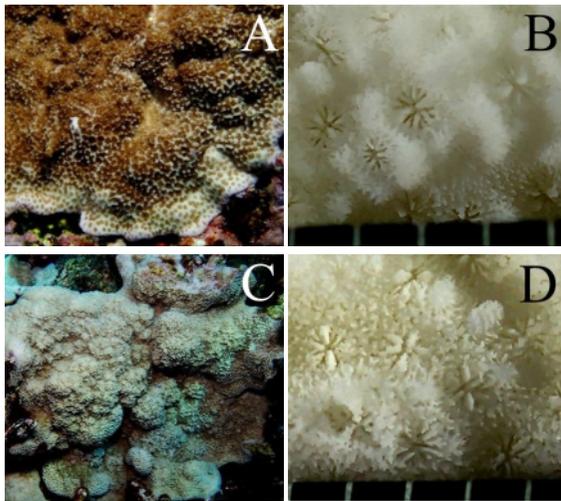


図 44. ナンサコモンサンゴ *Montipora sinensis*.
A, 生時群体 (SMP2723, 八重干瀬) . B, 個体とその周囲の骨格 (標本は A と同じ) . C, 生時群体 (SMP2764, 八重干瀬) . D, 個体とその周囲の骨格 (標本は C と同じ) . スケールは1mm.

縁種と区別される。

新称和名：タイプ産地である南沙諸島に因む。
備考：原記載 (Bernard, 1897) ではタイプ指定がなされていないためタイプは2つのシタイプ (南沙諸島産、グレートバリアリーフ) から構成されているはずであるが、自然史博物館には南沙諸島産の標本がホロタイプとして所蔵されている。著者が採集した標本群の形態はホロタイプと大方は一致したが、共骨壁がより発達する傾向を持つことが同定の大きな障壁となっていた。ところが、ホロタイプと外見が極めて酷似するものの共骨壁が発達傾向にある生時写真が西平・Veron (1995: 49, 写真上) に掲載されており、これにより本種の共骨壁の発達度合には変異があると判断した。なお、Veron & Wallace (1984) は本種をトゲクボミコモンサンゴ *M. monasteriata* のシノニムとしているが、これは間違いである。また、CITES (2005) では本種をコツブコモンサンゴ *M. tuberculosa* のシノニムにしているが、本種と *M. tuberculosa* の間には形態的相違点が多く、この措置も適切ではない。

ジダコモンサンゴ (新称)

Montipora lobulata Bernard, 1897

図 45 (A ~ E)

Montipora lobulata Bernard, 1897: 76, pl. XIV, pl. XVI fig. 1, pl. XXXIII fig. 1.

? *Montipora acanthella* Bernard, 1897: 79, pl. XII fig. 1, pl. XXXIII fig. 2.

? *Montipora lanuginosa* Bernard, 1897:

Montipora caliculata - 西平・Veron, 1995: 63;

Veron, 2000: vol. 1, 128-129, figs. 1-2, 4, 6 (part).

? *Montipora lobulata* - Veron, 2000: vol. 1, 95, fig. 4.

特徴：群体は準塊状～塊状で、不規則な瘤状突起を備え、長径は約1mに達する。基本的に個体は瘤状突起間の谷間では密集して分布し個体間隔は個体1個分以内であるが、瘤状突起上ではそれよりも疎らにかつ不規則に分布する。また、たいていの個体は共骨中に埋没するが、個体によっては周囲の共骨壁とともに突出する場

合がある。莢径は 0.6 ~ 0.7 mm である。莢壁輪は明瞭でリング状をなし、不完全な裸地帯を伴う。方向隔壁はやや不明瞭で、個体によって 1 枚もしくは 1 対が認められ、長さは 0.5 ~ 0.7R で、歯状板を形成してやや上方に突出する。1 次隔壁は完全・不規則で長さはたいてい 0.5R 以下であるが、稀に 0.7R あるものが認められる。2 次隔壁は不完全・不規則で、長さは 0.3R 以下で未発達な個体も多い。たいていの個体は軸柱栓を欠くが、弱い軸柱栓を持つ個体も認められる。共骨の肌理はやや粗く、共骨や粒状突起上には針状か薄片状の棘が分布し、その先端は単純かやや細分されるが、繊細な霜降状に細分されることはない。共骨上には微小突起とそ

れが成長した長径 1 ~ 2 mm の粒状突起が不均一に分布し、粒状突起は互いに連結して個体の周りをカップ状もしくは耳たぶ状の共骨壁として縁取る傾向があるが、この傾向は群体によって著しく強弱がある。微小突起は肌理が粗く、先の鈍い円錐状をなし、腰高の円柱状にはならない。

産地：タイプ産地は米海軍基地があることで有名な、環礁で形成されたディエゴガルシア島(インド洋チャゴス諸島)。国内ではケラマ群島阿嘉島、宮古島、並びに八重山諸島竹富島。海外ではインドネシア、パプアニューギニア、グレートバリアリーフ。なお、以下の産地には同定上の問題から疑問が持たれる。インド洋セイシェル (Bernard, 1897)、インド洋ココス (キリング) 環礁 (Veron, 1993)、フランス領ポリネシア (Veron, 2000)。

近縁種との関係：本種は個体がやや小さいこと、2 次隔壁の発達が悪く短いこと、棘の先端は比較的単純で繊細な霜降状に細分されないこと、個体がカップ状もしくは耳たぶ状に縁取られた共骨壁を備えること等の複数の特徴によって他の近縁種と区別される。共骨壁がカップ状に張り出す傾向の弱い群体は、ナンサコモンサンゴ *M. sinensis* との区別が難しいが、この種は個体がやや大きく 2 次隔壁が良く発達すること、棘の先端は繊細な霜降状に細分されることの特徴を持つことで本種と区別される。ただし、外見や莢径は本種に酷似するものの、2 次隔壁や棘の構造がナンサコモンサンゴに類似した、ちょうど両者の中間型を示す集団が存在し、本集団の分類学的位置については決定しかねている。なお、ミトコンドリアをマーカーに用いた遺伝子解析では(ナンサコモンサンゴや中間型集団は未解析)、本種は大きなモリスコモンサンゴクレードの中の独立したサブクレードとして位置する。

新称和名：個体の 1 部が耳たぶ(耳袋：じだ)状に縁取られた共骨壁を備える特徴に因む。

備考：本種と同時に Bernard (1897) により記載された *M. acanthella* は、カップ状の共骨壁の

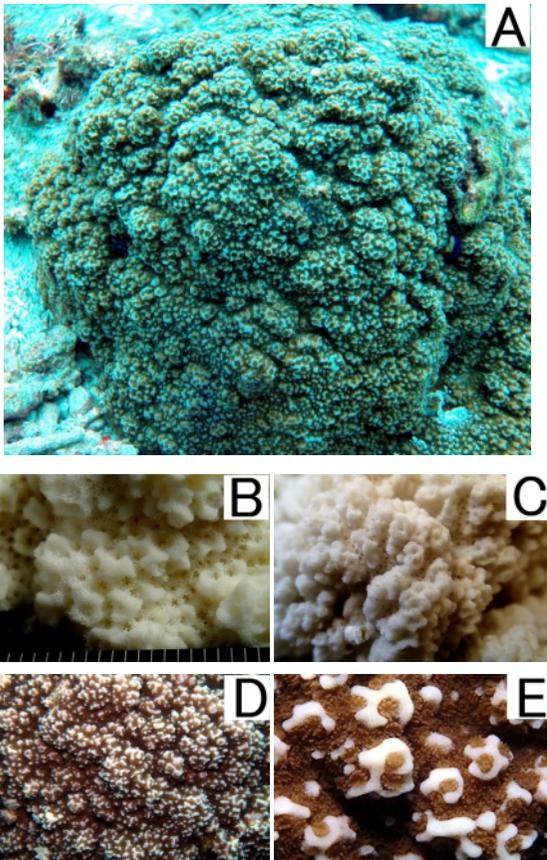


図 45. ジダコモンサンゴ *Montipora lobulata*.

A, 生時群体 (SMP2251, 石西礁湖) . B, 個体とその周囲の骨格 (標本は A と同じ) . C, タイプ標本 (ディエゴガルシア島) . D・E, 生時群体 (SMP2548, 宮古島) . スケールは 1 mm.

発達が悪い本種の形態変異のように思われる。また、Veron (2000) で掲載されている *M. lobulata* はカップ状の共骨壁の発達が著しく悪く（ほとんど発達していない）、別種の可能性が持たれる。さらに、本種は *M. caliculata* と混同される事が多い。

アツトゲクボミコモンサンゴ (仮称)

Montipora sp. ATSUTOGE.

図 46 (A ~ D)

Montipora cocosensis-Veron, 2000: vol. 1, 114-115, fig. 2 (part).

特徴：群体は被覆状で、群体表面に不明瞭・不規則な瘤状突起が密生する。個体はほぼ均一に分布し、個体間隔は個体 1 個分である。個体は共骨もしくは共骨壁中にやや深く埋没し、突出しない。莖径は約 0.7 mm。莖壁輪は明瞭か不明瞭で、裸地帯を欠く。方向隔壁はやや不明瞭で基本的に 1 枚が認められ、長さは 0.7 ~ 0.8R、不完全な歯状板を形成する。1 次隔壁は完全・規則的で、長さは 0.6R 以下である。2 次隔壁はほぼ完全・規則的で長さは 0.5R 以下、部分的に 1 次・2 次隔壁は垂等長に揃う場合がある。共骨の肌理は緻密で、共骨上には先端が霜

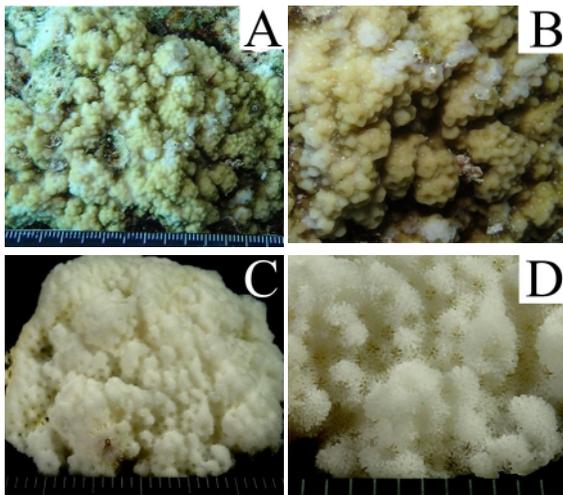


図 46. アツトゲクボミコモンサンゴ *Montipora* sp. ATSUTOGE. A・B, 生時群体 (SMP2755, 八重干瀬). C, 骨格標本 (標本は A と同じ). D, 個体とその周囲の骨格 (標本は A と同じ). スケールは 1 mm

降り様の繊細な細分棘が分布する。微小突起は稀に分布し、莖径とほぼ同じ大きさで、ドーム状をなす。共骨上にはこの微小突起の成長・接合体が個体の周囲を厚く被い、不完全な共骨壁を形成する。生時の色彩は共肉は淡黄褐色で、ポリプは明色をなす。

産地：国内では宮古島北沖の八重干瀬 (1 標本)。海外ではインドネシア (Veron, 2000)。

近縁種との関係：本種は個体が共骨中にやや深く沈むこと、2 次隔壁がほぼ完全・規則的なこと、先端が繊細な霜降り状の細分棘を備えること、微小突起はドーム状をなすこと、個体が厚い共骨壁によって不完全に囲まれること等の複数の特徴によって、他の近縁種と区別される。

仮称和名：厚い共骨壁を持つ特徴に因む。

備考：日本初記録。

マルトゲクボミコモンサンゴ (新称)

Montipora conicula Wells, 1954

図 47 (A ~ F)

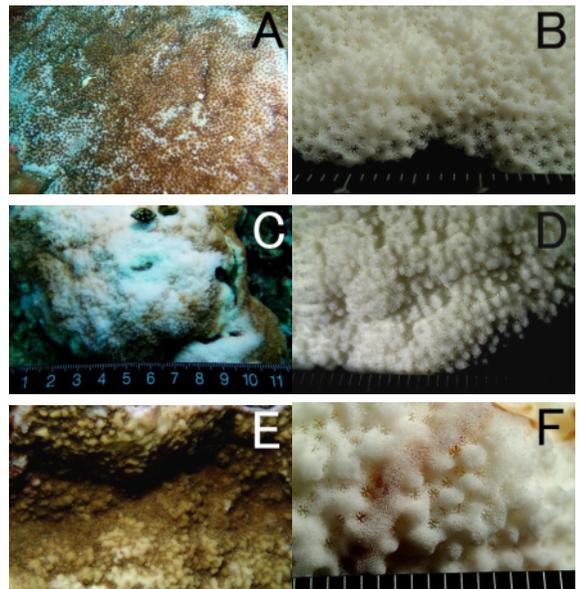


図 47. マルトゲクボミコモンサンゴ *Montipora conicula* A, 生時群体 (SMP2244, 石西礁湖). B, 骨格標本 (標本は A と同じ). C, 生時群体 (SMP2719, 八重干瀬). D, 骨格標本 (標本は C と同じ). E, 生時群体 (SMP2762, 八重干瀬). F, 個体とその周囲の骨格 (標本は E と同じ). スケールは 1 mm

Montipora conicula Wells, 1954: 436-437, pl. 146 figs. 3-4.

Montipora tuberculosa Wells, 1954: 436, pl. 144 figs. 3-4, pl. 146 fig. 8.

特徴：群体は被覆状もしくは塊状で、瘤状突起等の明瞭な大型突起を欠く。個体はやや不均一に分布し、個体間隔は個体2個分以内であるが、群体周縁はより疎らである。個体は共骨中に埋没し、基本的に突出しない。莢径は0.7 mm。莢壁輪はほとんど不明瞭で、裸地帯は不完全である。方向隔壁はやや不明瞭で、1枚もしくは1対が認められ、長さは0.6～0.8R、歯状板を形成し上方に顕著に突出する。1次隔壁は完全・規則的、長さは0.7R以下で、上方に突出する傾向があり、個体によっては一部が歯状板を形成する。2次隔壁は短いほぼ完全・規則的、長さは0.3R以下で、1次・2次隔壁は明瞭に不等長である。軸柱栓は認められない。共骨の肌理は緻密で、先端が霜降り状の繊細な細分棘が被う。共骨表面にはほぼ莢径と同大の微小突起と、それが成長した長径1 mm程の粒状突起もしくは粒状突起同士が接合したごく短い畝状突起が混在し、これら小型突起の密度は群体によって差がある。微小突起は肌理がやや粗く、ドーム状もしくは先の丸い円錐状をなして腰が低く（基本的に長径よりも高さの方が短い）、円柱状をなさない。小型突起はしばしば互いに接合して個体の周りを被い不完全な共骨壁を形成する。生時の色彩は共肉・ポリプ共に褐色である。

産地：国内では宮古島北沖の八重干瀬、八重山諸島石西礁湖ならびに石垣島。海外ではマーシャル諸島ビキニ環礁（タイプ産地）。

近縁種との関係：本種は個体はやや疎らに分布すること、個体が共骨中に埋没すること、幅広で先の丸い微小突起を持つこと、しばしば不完全な共骨壁を持つこと、先端が繊細な霜降り状の細分棘で被われること等の複数の特徴によって、他の近縁種と区別される。

新称和名：幅広で先の丸い小型突起を持つ特徴に因む。

備考：日本初記録。

コプトゲクボミコモンサンゴ（仮称）

Montipora sp. KOBUTOGE.

図 48 (A～D)

特徴：群体は塊状で、直径1 cmほどの瘤状突起が群体全体を均一に被う。個体はほぼ均一に分布し、個体間隔は個体1個分である。個体は共骨中に埋没し、突出しない。個体は大きく、莢径は0.9 mmである。莢壁輪はリング状をなし、明瞭な裸地帯を伴う。方向隔壁はやや不明瞭で基本的に1枚が認められ、長さは0.7～0.9Rで、歯状板を形成し、明瞭に上方に突出する。1次隔壁は完全・規則的、長さは0.7R以下で、部分的に不完全な歯状板を形成し、やや上方に突出する。2次隔壁は不完全・不規則、長さは0.4R以下で、1次・2次隔壁は明瞭に不等長である。共骨の肌理は比較的緻密で、棘の先端はやや単純か繊細な霜降り状に細分される。部分的に明瞭な共骨壁が認められ、また、稀に共骨壁の一部が棘状に突出して微小突起を形成するが、微小突起同士が接合して畝状突起を形成することはない。生時の色彩は共肉・ポリプ共に褐色をなす。

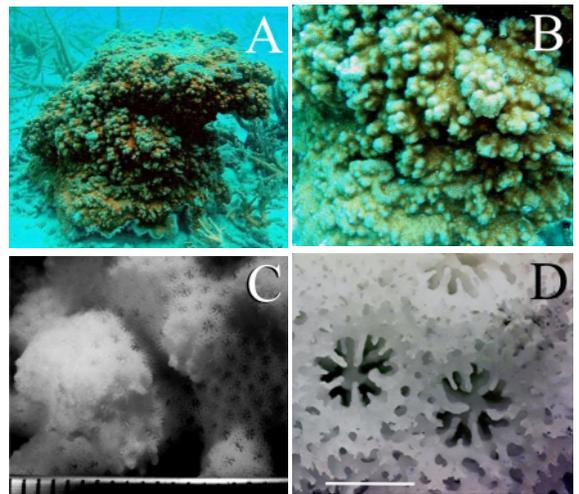


図 48. コプトゲクボミコモンサンゴ *Montipora* sp. KOBUTOGE. A・B, 生時群体 (SMP2276, 石西礁湖) . C, 骨格標本 (標本はAと同じ) . D, 個体とその周囲の骨格 (標本はAと同じ) . スケールは1 mm

産地：八重山諸島竹富島北沖の石西礁湖（1 標本のみ）。

近縁種との関係：本種は長径 1 cm ほどの瘤状突起が密生すること、個体が共骨中に埋没し突出しないこと、個体が大さいこと、莢壁輪や裸地帯が明瞭なこと、共骨壁が部分的に発達すること、1 次隔壁の長さが 0.7R 以下とやや長いこと、微小突起は共骨壁の一部が突出する形で稀に出現すること等の複数の特徴によって、他の近縁種と区別される。

仮称和名：長径 1 cm ほどの瘤状突起が密生する特徴に因む。

備考：日本初記録。

カタトゲクボミコモンサンゴ（仮称）

Montipora sp. KATATOGE.

図 49 (A ~ D)

特徴：群体型は塊状で、表面に不規則な瘤状突起が不均一に分布する。個体はほぼ均一に分布し、個体間隔は個体 2 個分以内である。莢径は 0.6 ~ 0.7 mm。莢壁輪はリング状をなし、その周囲に不完全な裸地帯が認められる。方向隔壁は明瞭で、1 枚もしくは 1 対が認められ、長さは 0.7 ~ 1.0R で、歯状板もしくは不完全な歯状板を形成し上方に幾分突出する。1 次・2 次隔壁は完全・規則的で互いに不等長である。1 次隔壁の長さは 0.7R 以下、2 次隔壁は 0.4R 以下である。共骨上には微小突起が不均一に分布し、これが個体の周囲で成長ならびに接合して共骨壁を形成する傾向が強い。共骨壁は群体全面にわたって良く発達するが、どの個体も完全には共骨壁に被われない。また、粒状突起の接合体は長い畝状突起を形成しない。微小突起の肌理はやや粗く、腰が低くでやや扁平な柱状か先の丸い円錐状をなし、腰高の円柱状にはならない。共骨の肌理は緻密で、骨格は固くて重厚である。共骨や微小突起上には針状もしくは薄片状の棘が分布し、先端は概して単純である。生時の色彩は共肉・ポリプ共に淡褐色である。
産地：宮古島北沖の八重干瀬（1 標本のみ）。
近縁種との関係：本種は個体が共骨中に埋没し

突出しないこと、1 次隔壁の長さが 0.7R 以下とやや長いこと、共骨の肌理は緻密で先端がやや単純な棘に被われること、微小突起ならびにその成長・接合体は個体の周囲で発達して共骨壁を形成する傾向が強いこと、共骨壁は群体全面にわたって認められること等の複数の特徴によって、他の近縁種と区別される。特に本種はトゲクボミコモンサンゴ *M. monasteriata* に良く似るが、この種の 2 次隔壁は不完全・不規則で共骨の肌理は粗く、共骨壁は群体全面にわたって一様に分布しないこと等の相違点が認められる。

仮称和名：骨格が重厚で固い特徴に因む。

備考：日本初記録。

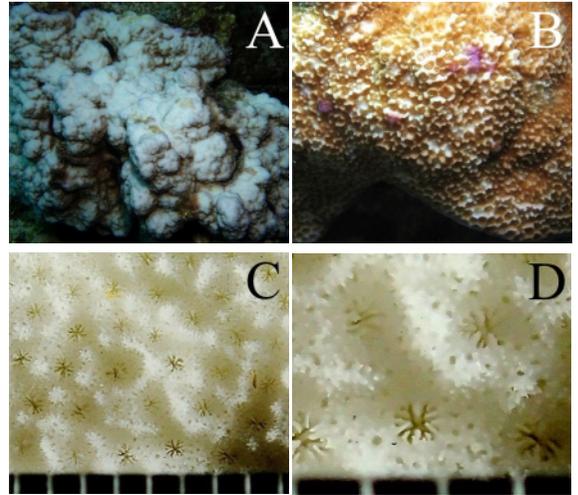


図 49. カタトゲクボミコモンサンゴ *Montipora* sp. KATATOGE. A・B, 生時群体 (SMP2740, 八重干瀬、白化状態) . C・D, 個体とその周囲の骨格 (標本は A と同じ) . スケールは 1 mm

マリンパビリオン 特別号 No. 1

発行日 平成 27 年 6 月 30 日

編集兼発行人

〒 649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田 1157

(株) 串本海中公園センター

電話 & FAX 0735-62-4875

ホームページ <http://www.kushimoto.co.jp/>

(本誌は上記からも無料配信中)